

07月度 例会 個人 山行報告書		報告者	津田廣一	参加 メンバー	CL ; 津田 廣一 利栄子
		報告日	8/7		
山城	東北 朝日連峰	山行日	19年 7月 31日 (水)		
山名	大朝日岳		~8月 1日 (木)		

山行目的	東北の名山 (百名山) を登る (98 座目)	コースタイム (天候 : 天気図記号)
------	-------------------------	---------------------

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局

ルート図 (地図を見て正確に)



1/2.5 万地形図 : 朝日岳

7/31 曇り
4:35 朝日鉱泉宿発
5:25 1本(10分)
800m 1.5k/4.5k 過ぎ
(6:15 2.5k/3.5k)
6:35 1本(10分)金山沢渡渉
(7:20 4.5k/1.5k)
7:30 1本(5分)
視界開けた所
8:00 1本(20分)鳥原小屋
(8:30 小寺鉱泉分岐)
8:50 鳥原展望台 1本
(10分)
9:50 1本(5分)
10:15 小朝日岳 1本(10分)
11:30 銀玉水 1本(15分)
12:25 大朝日小屋着 (泊)



←こわごわ
吊り橋を
渡ります

8/1 曇り後晴れ
5:15 朝日小屋発
5:30 大朝日岳山頂(15分)
6:20 7合目(1500m)
1本(5分)
(6:40 6合目)
(6:55 5合目)
7:10 長命水(4合目)
1本(10分)
(7:40 3合目)
8:00 二股 (2合目)
1本(10分)
9:00 1本(10分)
固定ザイルを登り切った所
10:00 朝日鉱泉宿着



下山時、ブロックン出現

〈山行報告〉東北最深の山とも言うべき大朝日岳。2年前の秋に朝日鉱泉まで入ったものの、降り続く雨で断念。今回は、梅雨明けシーズンを狙って、前日、この時期だけ運行の会員制タクシーで朝日鉱泉、ナチュラルリストの家へ。少しでも涼しい時間に高度を稼ごうと、4時起床の早朝出発。揺れる天気の吊り橋をこわごわ渡り、登山道に入るや、いきなりの急登だ。早朝の涼しさに助けられ、ボレボレではあるが、距離と高度を確実に稼ぐ。1h近く歩き、“鳥原山迄 4.5k”の標識を少し過ぎた広い所で一本。お弁当のお握りを頬張る。2人共快調だ。更に、距離を延し、アップダウンを繰り返す、ロープで金山沢へ降りて渡渉、1本。出発時、好天と思えたが、残念ながら曇ってきた。ピーカンより登りやすいかな?と気持ちを切り替える。鳥原湿原に至り、小屋へ。愉快な小屋番さんと20分位話をする。鳥原展望台へ着くが、大朝日は雲の中。小朝日を目指し、急登に喘いでいると、小屋で聞いた老夫婦が目を開けて道端に倒れている様に見える。「大丈夫ですか?」と、思わず声をかけると、「休憩してるだけ」と返答が・・・安心して先を急ぐ。小朝日も、12時半頃に大朝日小屋に到着もガスの中で風もあり寒い。大朝日は明日と決め、小屋の中へ。翌日も早く下山しようと、4時起床、5時出発と決めた。朝食の遅れで15分遅れの出発。昨夜の風が懸念されたが、風も昨日並となっていた。5時半に登頂。98座目だ。頂上では、半分ガスで見えないが、晴れている。頂上写真を撮って下山の途につく。振り返ると大朝日が微笑ん

でいる様だ。ガスのかかっている方向に眼をやると、“ブロックン”出現。急勾配の道をどんどん降りる。膝が泣きそうに感じる程だ。4合目を過ぎた頃、汗びっしょりの登山者とすれ違う。この道は、登りには使いたくない。2合目の出合いを過ぎるとアップダウンの長い道になり、予定通りの10時に宿へ到着。風呂を浴び、名物のそばを頂いて、2時半の会員制タクシーで左沢駅へ向かった。(この後、鳥海山登山の為、大平山荘へ)

〈リーダー所見〉
何が起こるか?本当に分からない。宿に置いていた着替えの入った袋が、他登山者グループに間違えて持って行かれてしまっていた。タオルと着替えのTシャツを宿のご好意で頂戴し、上半身は快適に。下半身は着干して何とかした。山での行動は、早朝出発のお蔭か、計画通りに歩き通す事ができた。



8月1日 5時30分、大朝日岳登頂

確認
(リーダー)
津
19/08/07
田
作成
(報告者)
津
19/08/07
田